



# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2025 January to March, vol. 225

新春特集展示

巳づくし—千支を愛でる—

特集展示

新時代の山城鍛冶—三品派と堀川派—

特別公開

名刀再臨—時代を超える優品たち—

特集展示

雛まつりと人形

『予告大阪・関西万博開催記念 特別展

日本、美のるつば—異文化交流の軌跡—



京都国立博物館

だより

二〇二五年  
一・二・三月号



【新春特集展示】

# 巳づくし

## 「千支を愛でる」

令和7年1月2日(木)

2月2日(日)

【平成知新館 1F-2】



草花獅子蛇文様金草布製 京都国立博物館



能装束 赤紅地 鱗文 京都国立博物館

作品を見るのが楽しくなるワークシート(小学校高学年)

やさしい解説文(小学校高学年)

令和7年の「千支を愛でる」もファミリー向け

今年の千支は巳(蛇)ですね。  
みなさんは蛇にどんなイメージを持っていますか？ 蛇は細長い体で手足がなく、ニョロニョロと動きます。ときどき古い皮膚を脱ぎ捨てる「脱皮」をしますね。なかには毒を持つものもいます。この不思議な生き物を見て、昔の人たちは恐ろしく思いながらも、特別な力を持つ存在だと考えてきたようです。「巳づくし 千支を愛でる」では、次の4つのテーマに沿って、作品を展示します。



有孔罌付土器 京都国立博物館

### 1 むかしむかし

その昔、まだ文字がなかった頃に作られたものにも、ヘビの姿は登場します。どんな思いを込めてヘビを表したのか、想像してみましよう。

### 2 こわいヘビ

ヘビは、獲物を丸のみにしてしまえます。なかには毒を持っているものもいます。昔の人は、なぜそんなこわい生き物を、描いたり、時には身に着けたりしたのでしょうか。

### 3 ふしぎなヘビ

夢に出てきたヘビや、物語の中に登場するヘビなど、現実のヘビとはちよつと違う、ふしぎなヘビたちを集めました。昔の人は、ヘビの姿を借りて、何を語ろうとしたのでしょうか。

### 4 ほとけとヘビ

仏教が生まれたインドでは、コブラなどの毒ヘビが身近にいました。人々が恐れたヘビは、仏教の美術の中でも、よく敵として描かれます。でも、中には仲間のヘビもいます。ここには、どんなヘビがいるでしょう。

京博の蛇たちは展示ケースの中でおとなしくしていますので、蛇が苦手な人も安心して来てくださいね。  
(水谷亜希)



重要文化財 新羅文様(部分) 京都・露沙門堂



重要文化財 十二類絵巻 巻上(部分)



【特集展示】

# 新時代の山城鍛冶

## ―三品派と堀川派―

令和7年1月2日(木)～3月23日(日)

※会期中、一部の作品は展示替えを行います。

【平成知新館 1F・4・6】

慶長年間(一五九六～一六一五)を境に、それ以前に製作された刀剣類を「古刀」、それ以降のものを「新刀」と呼んで区別しています。これは近代以降に用いられるようになった分類・用語ですが、享保六年(一七二一)に刊行された「新刃銘尽」など江戸時代の刀剣研究を紐解くと、当初は「現代作」や「新しい品」という使われ方だった「新刀(刀)」の意味が次第に変化し、安永六年(一七七七)に川越藩士・鎌田魚妙が著した「慶長以来 新刀弁疑」を経て、最終的に前述の分類に落ち着くことが分かります。

鎌田魚妙が慶長を時代の区切りとし、自著のタイトルにまで盛り込んだのは理由があります。平安時代から日本の文化を牽引してきた京都は、室町時代・十五世紀に勃発した応仁の乱やその後の天文法華の乱により市中が戦場となり、ひどく荒廃してしまいました。その結果、平安時代や鎌倉時代に活躍した京都の刀鍛冶(山城鍛冶)の末裔は全国に分散し、かつての勢いを失ったのです。やがて織田信長や豊臣秀吉が上洛を果たし、二条城(二条御所・旧二条城)、聚楽第、伏見城などの大規模な普請や、区画整理に着手したことで京都は再び活気を取り戻し、それに呼応して各種の工人・職人たちが移住してきました。天正元年(一五七三)から慶長二十年(一六一五)頃は、日本文化の中で最も絢爛豪華な桃山文化が花開いた時代であり、京都国立博物館ではこの期間を「桃山時代」と定義しています。刀鍛冶もその例に漏れず、全国から腕自慢の名工たちが京都に集まり、従来の山城鍛冶とは一線を画す新しい鍛冶集団を形成しました。彼ら新興の山城鍛冶の中で、ひと際存在感を放ったのが美濃国関鍛冶の流れを汲む大道とその子らによる三品派と、日向国出身の国広を棟梁とした堀川派です。この展示では新刀時代を牽引した二大流派の個性あふれる名品を紹介し、新時代の山城鍛冶の魅力に迫ります。

(末兼俊彦)

【特別公開】

## 名刀再臨

―時代を超える優品たち―

この度、京都国立博物館は重要文化財の刀剣三口を含む貴重な文化財の寄贈と寄託を受けました。これら三口の重要文化財は、日本刀の主要産地である山城・備前・備中を代表する名工の作品であるにもかかわらず、いずれも半世紀近く一般に公開されたことのない知られざる優品です。中でも重要文化財「太刀 銘国安」は昭和十七年(一九四二)の重要文化財(旧国宝)指

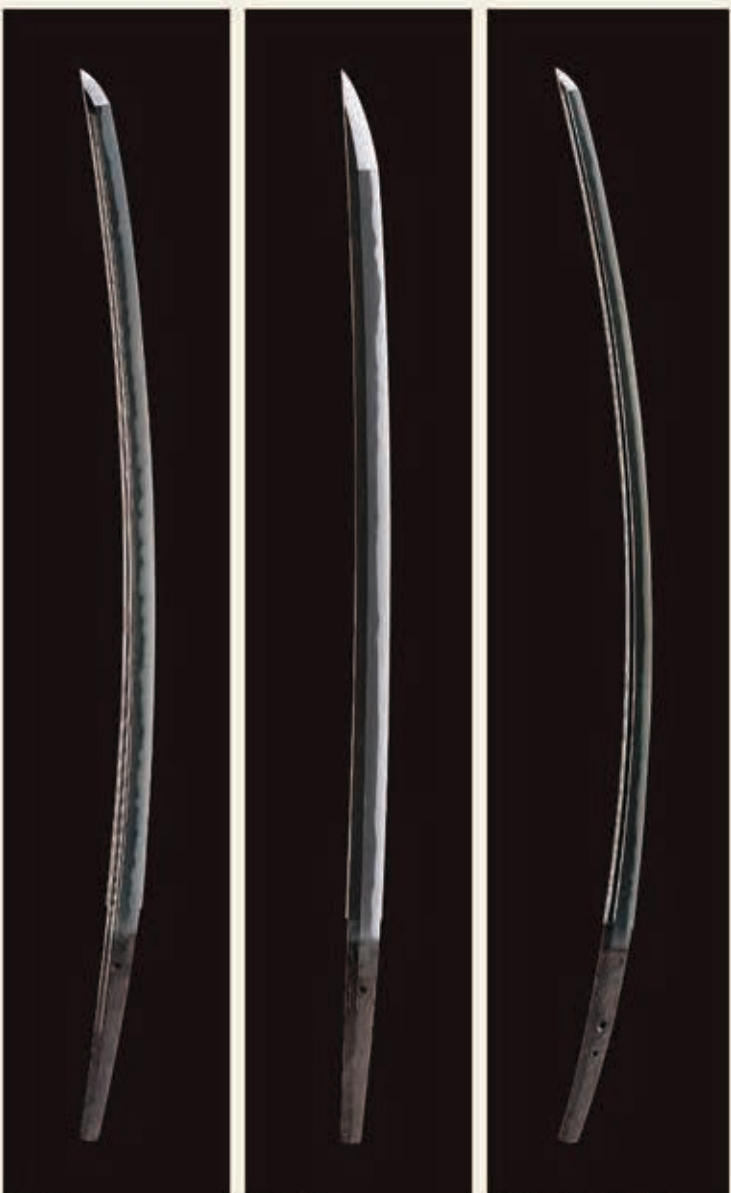
令和7年1月2日(木)～3月23日(日)

※会期中、展示替えを行います。

【平成知新館 1F・5】

定後八十年にわたり、展示のみならず写真・押形も一般の目に触れていない初公開の作品となります。この展示では期間を三期に分け、各作品を一口ずつ細部まで鑑賞いただきます。展示を通して国立博物館が行っている文化財保護活動と、国民の宝である文化財の素晴らしさをお伝えできれば幸いです。

(末兼俊彦)



重要文化財 太刀 銘備中以下切  
松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館  
(2月26日～3月23日展示)

重要文化財 太刀 銘備前国長船住義景  
松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館  
(1月28日～2月24日展示)

重要文化財 太刀 銘国安  
(1月2日～1月26日展示)

### 1月からの 平成知新館 名品ギャラリー

3F・1 陶磁

【京焼における仁清―御室仁清窯跡出土陶片の胎土分析からみる製陶技術―】  
1月2日(木)～3月16日(日)

3F・2 考古

【日本の須恵器と韓国の陶質土器】  
1月2日(木)～3月16日(日)

2F・1 絵巻

【神々の伝説―八幡・厳島―】  
1月2日(木)～2月9日(日)

【画中詞―絵のなかのことば―】  
2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2F・2 仏画

【十二天屏風の世界】  
1月2日(木)～2月9日(日)

【涅槃図】

2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2F・3 中世絵画

【松竹梅の美術】  
1月2日(木)～2月9日(日)

【農耕の絵画】

2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2F・4 近世絵画

【日本の女性画家】  
1月2日(木)～2月9日(日)

【画家のスケッチ】

2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2F・5 中国絵画

【塩都・揚州の繁栄と芸術】



〈堀川派〉短刀 銘日州住藤原国広  
天正十七年八月日  
松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館



〈堀川派〉短刀 銘日州住信濃守国広  
作/天正十九年二月吉日  
加藤静允氏寄贈・京都国立博物館



〈三品派〉刀 銘吉行(坂本龍馬所用)  
坂本彌太郎氏寄贈・京都国立博物館



〈三品派〉重要美術品 刀 銘丹波守吉道  
京都国立博物館



【特集展示】

# 雛まつりと人形

令和7年2月15日(土)～3月23日(日)

【平成知新館 1F-2】

雪解けの水も温み、本年もまた雛の時節がめぐってきま  
した。

雛まつりは「上巳の節句」ともいいます。古く中国では、  
三月初めの巳の日を上巳とよび、後に三月三日を上巳と定  
めて、不祥(め)でたくないこと、不吉、不運なことを祓う  
禊の行事を行っていました。それが日本にも取り入れられ、  
朝廷や貴族は川辺で祓(はら)を行い、曲水の宴を催すようになり  
ました。そこでは紙などの簡素な素材で作られた人形が、  
人間についた穢れを引き受ける形代となり、水に流すなど  
して捨てられていたようです。現代でも「流し雛」にその様  
子をうかがうことができます。この習俗が、やがて子ども



御殿雛飾り 横山経治氏寄贈・京都国立博物館



御所人形 手綱持  
京都国立博物館

が遊びに用いる人形と結びつき、  
江戸時代には座敷に飾りつける雛  
人形や雛段へ発展したと考えられ  
ています。

江戸時代の雛人形は、元号を冠  
して呼ばれる寛永雛や享保雛をは  
じめ、考案した人形師の名に由来  
するという次郎左衛門雛、江戸で  
誕生した古今雛、上方の親王雛や、  
公家の装束を正しく写した有職雛  
など、その特徴に応じて分類する  
ことができます。

この特集展示では、恒例となっ  
ている関西風の御殿雛飾りに至る  
雛人形の歴史と、各種の雛人形の  
特徴を紹介いたします。また、嵯峨人  
形・御所人形・賀茂人形・伏見人  
形といった京人形を通して、みや  
こで育まれた人形文化の諸相をこ  
覧いただければ幸いです。

(山内麻衣子)



有職立雛(狩衣姿) 京都国立博物館



次郎左衛門坐雛 入江波光コレクション 入江西一郎氏寄贈・京都国立博物館

「袁江・王雲筆「樓閣山水図屏風」

1月2日(木)～2月9日(日)

【齊白石の絵画

「須磨弥吉郎の蒐集品より」

2月11日(火・祝)～3月23日(日)

1F-1 彫刻

【京都の仏像・神像】

1月2日(木)～3月23日(日)

1F-2 特別展示室

【新春特集展示 巳づくし

―千支を愛でる―

1月2日(木)～2月2日(日)

【特集展示 雛まつりと人形】

2月15日(土)～3月23日(日)

1F-3 書跡

【墨蹟―禅僧の書】

1月2日(木)～2月9日(日)

【紺紙経―輝く仏の言葉―】

2月11日(火・祝)～3月23日(日)

1F-4

【特集展示 新時代の山城鍛冶

―三品派と堀川派―

1月2日(木)～3月23日(日)

1F-5

【特別公開 名刀再臨

―時代を超える優品たち―

1月2日(木)～3月23日(日)

1F-6

【特集展示 新時代の山城鍛冶

―三品派と堀川派―

1月2日(木)～3月23日(日)

※3F-112は3月18日～23日、1F-2は  
2月4日～14日が閉室となります。



# 「予告」大阪・関西万博開催記念 特別展 日本、美のるつぽ —異文化交流の軌跡—

令和7年4月19日(土)～6月15日(日)  
【主な展示】 前期展示：4月19日(土)～5月18日(日)  
後期展示：5月20日(火)～6月15日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替えを行います。

【平成知新館】

私たちがイメージする日本美術の歴史は、十九世紀末から二十世紀初めに盛んに催された万国博覧会に深く関わっていることをご存知でしょうか。

明治時代になると、「日本」がひとつの国として明確に意識されるようになります。国家として初めて参加した明治六年(一八七三)のウィーン万博では、「美術」の概念がドイツ語から翻訳して取り入れられました。そして「日本美術史」が公式に編まれたのは明治三十三年(一九〇〇)のパリ万博のときです。このとき、諸外国に向けて日本美術を紹介する豪華本が製作されました。西洋の美術史に倣い、絵画、彫刻、宗教美術、アカデミズムが上位におかれ、政治史に呼応する時代区分が採用されました。万博がなければ、今のような日本美術史が誕生することもなかったのかもしれない。

近代日本が世界と出会うなかで整えられた日本美術史という視点のほかに、この展覧会では、古代の朝鮮半島との関わり、シルクロードを通じた文物の伝来、仏法東漸、神祇文化の流入にとりもなう唐物の珍重、大航海時代のグローバルイズム、黄鵬の到来による江戸時代の新たな中国趣味など、各時代における異文化交流の軌跡をたどります。みなさまがよくご存知の名品も「交流」という観点から見ること、またちがう魅力を放つことでしよう。明治時代には日本らしさを強調することが大切でしたが、令和の国立博物館は多様性と共生をめざす国際社会のなかにあります。世界の人びとと共に楽しめる展覧会をめざします。

(永島明子)



重要美術品  
埴輪、歌を詠む男子  
佐野馬場太田市編野町出土  
京都国立博物館



重要文化財 聖徳太子像  
京都・仁和寺  
(4月19日～5月18日展示)



国宝 風神雷神図屏風 鎌倉・建仁寺



『Histoire de l'Art du Japon』(日本美術史)  
巴里万国博覧会臨時博覧会事務局編  
京都国立博物館(複製あり)



国宝  
宝篋山陀羅尼經持子箱  
京都・仁和寺

よみもの

## 極楽浄土と蝶

まだ小学生だったある春の日、ワンピースの小花柄にモンキチョウがとまった。それ以来ずっと蝶が気になっている。深い光沢を帯びた天竺絨のような翅は「森の宝石」の称号にふさわしく、幼虫から蛹となり、羽化して飛び立つ変態過程も神秘的だ。ふわりと飛翔する姿を追っていると、ふと時空のあわいに迷い込んだかの心地がする。

先ごろ訪れた韓国中央博物館では、特集展示「朝鮮絵画の中の花と蝶」を担当した研究員さんと日韓の蝶について話す機会があった。現地ではインフルエンサーの間で「ナビ(韓国語で蝶の意)アイテム」が流行中らしい。人氣の韓流ドラマでも蝶は物語のキーマンとして登場するようだ。そして朝鮮絵画の蝶は夫婦和合や富貴栄華の象徴、あるいは長生の祈念として描かれるとのこと。中国の吉祥図案の蝶と解釈は概ね共通している。とはいえ、中国の蝶といえば、やはり「莊子」齊物論篇「胡蝶の夢」であろう。かつて莊周が夢で胡蝶となったという一節。夢と覚、己と他、生と死といった相対や区別を越えた「万物斉同」の境地と、「物化」つまりある物が他の物になる生成変化に「道」を説く。どうやらこの「夢幻の世界に遊ぶ蝶」「人間の化身としての蝶」のイメージは洋の東西を問わないらしく、古代ギリシア語の「プシケ」は息、魂、心の意であると共に蝶をも意味し、ギリシア神話に登場するエロス(クピッド)の美しい妻「プシケ」は、背に翅を持って表される。日本もその例に漏れず、蝶や蛹を靈魂の顯れとみる民間信仰が、古くより全国に存在していた。

ところでそのような普遍的無意識的な蝶観とは別に、平安から鎌倉時代の一時期、蝶は鳥と組み合わせられた「蝶鳥文様」として盛行し、とりわけ天皇や貴族の周辺において特別な記号として機能していたことをご存じである

うか。かつてこの文様は、「源氏物語」胡蝶巻に描かれた舞楽の「胡蝶」と「迦陵頻伽」の番舞に由来するとされ、その典拠は極楽浄土にあると指摘されていた。ところが大蔵経を通覧したところ、確かに「迦陵頻伽(迦陵頻伽)」は「阿彌陀經」に「極楽国土の雲鳥」と記されるが、「胡蝶(蝶)」は「六波羅蜜多經」等に「畜生道にある虫類」として分類されるに過ぎず、經典にその典拠は見いだせない。もっとも日本人の往生観を形成せしめた「往生要集」(九八五)をみると、蝶は虫類に含まれてはおらず、幾分好意的な視線も感じられるのだが、いったい何ゆえ蝶は極楽浄土を荘厳する存在に成り得たのだろうか。

答えは「源氏物語」胡蝶巻の仙境表現にあった。舞台となる光源氏の六条院は「生ける仏の御国」つまり極楽浄土であり、「世になき」「唐めいたる」「知らぬ国」といった非日常の、異国的な空間として、憧れの先進国である中国・唐のイメージが重ね合わされた。そしてその世界は、王賢燭柯・劉阮天台・桃源郷の三つの仙境故事を引用しつつ、華やかな漢語の修辭で讃えられた。「白氏文集」「牡丹芳」の「蝶蝶双舞看人久 殘鶯一聲春日長」をはじめ、隋・唐時代の漢詩には、蝶と鳥とが対句として盛んに詠み込まれている。胡蝶巻の蝶鳥の組合せは、その影響によるものだろう。ここに「極楽浄土+仙境+唐」の三要素が織り成す理想郷が創出され、「極楽浄土に蝶」のイメージが誕生したのである。この蝶鳥の組合せは極楽浄土を荘厳するだけでなく、天皇の聖域や神の神域などの境界を示す「境界の装置」として機能していた点も興味深い。

舞楽の蝶鳥の舞手らは、法会において衆生を仏の浄土へと繋ぐ伝供の役割を担う。日本においては蝶も仏の世界へと導いてくれるはずなのである。

京都国立博物館主任研究員

山内麻衣子

### 「ミュージアムパートナー」一覧

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

「ゴールド」土屋和之  
株式会社SODAホールディングス  
株式会社 藤ノ木S&A株式会社  
「シルバー」学校法人二本松学院  
東レエンジニアリング株式会社  
「ブロンズ」原田清朗/片山明/伊藤正人

### 「キャンパスメンバーズ」

令和6年12月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会等さまざまな特典を提供しています。

学校法人 瓜生山学園/追手門学院大学/国立大学法人 大阪大学/大阪谷大学/大谷大学/学校法人 大手前学園/学校法人 関西大学/学校法人 関西学院/国立大学法人 京都大学/学校法人 京都府立大学/京都府立大学/近畿大学/国立大学法人 神戸大学/四天王寺大学/就実大学/成安造形大学/学校法人 大覚寺学園/帝塚山大学/学校法人 同志社/奈良大学/奈良女子大学/国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学/学校法人 二本松学院/花園大学/佛教大学/学校法人 立命館/鎌谷大学

### ◆寄附

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の一〇〇〇年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記の方より寄附をいただきました。寄附の趣意を踏まえ、大切に活用させていただきます。

寄附者 敬告 様



## 講座・イベント

### 《土曜講座》

#### 1月11日(土)「唐代金銀器の諸相」

京都国立博物館館長 松本伸之

#### 1月18日(土)「技法書「陶工必用」と御室仁清窯跡出土陶片」

京都国立博物館上席研究員／保存科学室長 降幡順子

#### 1月25日(土)「巳づくし—蛇を表す・蛇で表す—」

京都国立博物館主任研究員 水谷亜希

#### 2月1日(土)「新時代の山城鍛冶—三品派と堀川派—」

京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

#### 2月8日(土)「古墳時代の武装—日本文化における武威の源流—」

京都国立博物館研究員 古谷 毅

#### 2月15日(土)「名刀再臨—時代を超える優品たち—」

京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

#### 2月22日(土)「絵巻における絵と詞」

京都国立博物館主任研究員 井並林太郎

#### 3月1日(土)「雛まつりの装い」

京都国立博物館主任研究員 山内麻衣子

#### 3月8日(土)「墓誌の時代—小野毛人墓誌と成奈大村墓誌をめぐって—」

京都国立博物館特任研究員 宮川禎一

#### 3月15日(土)「ロクロ回転でたどる桃山陶工の足跡

—美濃・唐津・高取技術交流論—

京都国立博物館学芸部長／工芸室長 尾野善裕

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料（ただし講演会当日の観覧券等が必要）。

※当日9時30分より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

### 《芸舞妓 春の舞》

日時：令和7年1月19日（日）11時～、13時～ ＊各回約30分

会場：平成知新館 講堂 定員：各回200名

参加費：無料（ただし、当日の観覧券等が必要）

参加方法：12月10日（火）10時より、ウェブサイトよりお申し込みください。事前予約優先制。先着順、定員になり次第受付を終了します。

[https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20250119\\_spr-dance/](https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20250119_spr-dance/)

### 《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。今年度は令和7年2月23日（日・祝）に実施します。留学生の方は、学生証をご提示いただくと、無料で名品ギャラリー（平常展示）をご観覧いただけるほか、音声ガイドの無料貸し出しやトラリンのノベルティグッズプレゼントを予定しています。この機会にぜひご来館ください。

### 《京都・らくご博物館【冬】～早春寄席～ vol.68》

日時：令和7年3月2日（日）13時30分開演（13時開場）

会場：平成知新館 講堂 定員：200名

出演：桂りょうば 桂米輝 桂八十八 <中入> 桂紅雀 桂塩鯛

入場料：3200円（全席自由／キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証提示または教職員証提示により2600円）

※当日は、本公演のチケットで名品ギャラリー（平常展示）をご覧いただけます。

※チケットは12月11日（水）より、当館南門チケット売場、またはローソンチケット（Lコード：51547）にて販売。

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/rak/vol68/>

## これからの展覧会

### ◆大阪・関西万博開催記念 特別展

日本、美のるつば—異文化交流の軌跡—

令和7年（2025）4月19日（土）～6月15日（日）

### ◆特別展

宋元仏画—蒼海を越えたほとけたち

令和7年（2025）9月20日（土）～11月16日（日）

## ◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー 休止期間：12月3日（火）～12月28日（土）

令和7年3月25日（火）～4月17日（木）  
※上記期間中は庭園のみ開館となります。

### ご利用案内

【開館時間】<12月3日～令和7年4月17日>

9:30～17:00

※全曜日は20:00まで開館

※入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】

<令和7年1月2日～3月23日>

一般700円、大学生350円

※高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

※キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】

<12月3日～12月28日>

<令和7年3月25日～4月17日>

一般300円、大学生150円

※高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

※キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

※有料（一般のみ）にてご入館の方は、庭園ガイド冊子がございます。

【休館日】月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）、12月29日（日）～令和7年1月1日（水・祝）

### アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

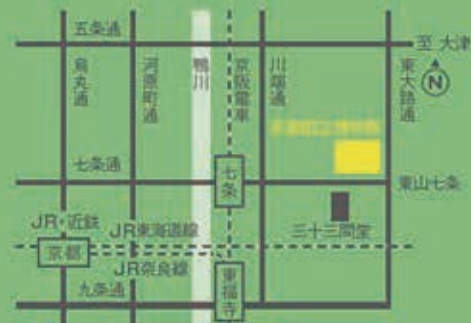
近鉄電車＝近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車＝京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

※「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は140円、長3封筒は110円）切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。



公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X（旧 Twitter）・Instagram

@KyotoNatMuseum

トラリン公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473（テレホンサービス）

発行日 令和7年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM

